

[シラス]

1. 経年経過

バッチ網漁業の漁獲量は、西薩海域では、平成 11 年の 5,450 トンをピークに減少傾向を示し、平成 14, 15 年と 1,000 トンを下回り低調に推移しました。その後、平成 16 年は 3,507 トンと比較的好調に推移しましたが、平成 17 年以降減少傾向を示し、令和 2 (2020) 年は 1,120 トンとなりました。

志布志湾海域では、平成 19 年まで増加傾向を示しましたが、その後、1,000 トン前後で増減を繰り返しながら推移し、令和 2 (2020) 年は 1,228 トンとなりました。

2. 令和 3 (2021) 年 1 ~ 2 月の漁況の経過

西薩海域では、カタクチシラス主体に 40 トンの水揚げで、前年の 3,995 %、平年の 47 %でした。

志布志湾海域では、カタクチシラス主体に 41 トンの水揚げで、前年の 63 %、平年の 32 %でした。

3. 令和 2 (2021) 年 4 ~ 6 月期の見通し

漁獲の主体は、カタクチシラスでしょう。

来遊量は西薩海域は、前年を上回り、平年並と考えられます。

志布志湾海域は、前年を下回り、平年並と考えられます。

(根拠)

西薩海域では、海況の状況や直近の漁模様から、前年を上回り、平年並と考えられます。

志布志湾海域では、直近の漁模様から、前年を下回り、平年並と考えられます。

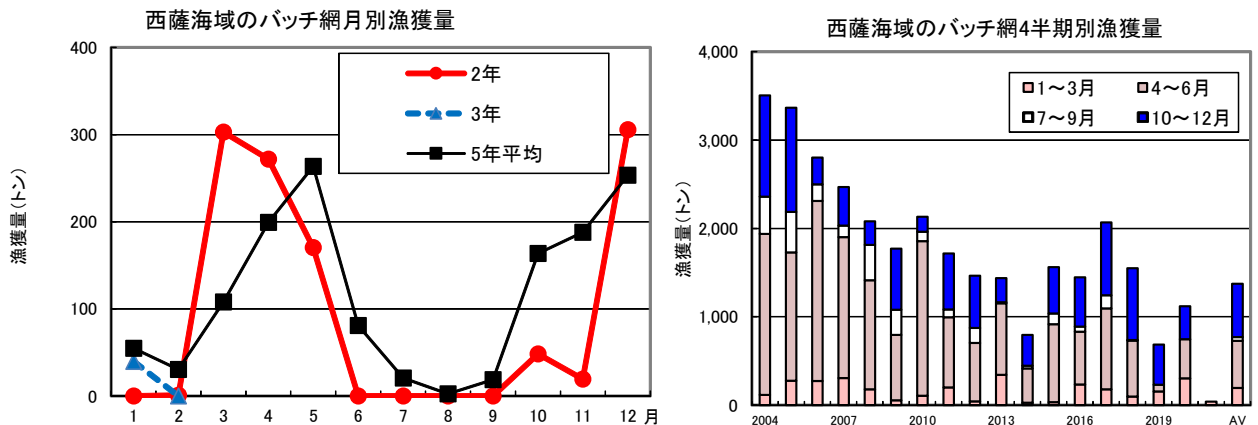


図 西薩海域バッチ網漁業の漁獲量変化(4漁協計)

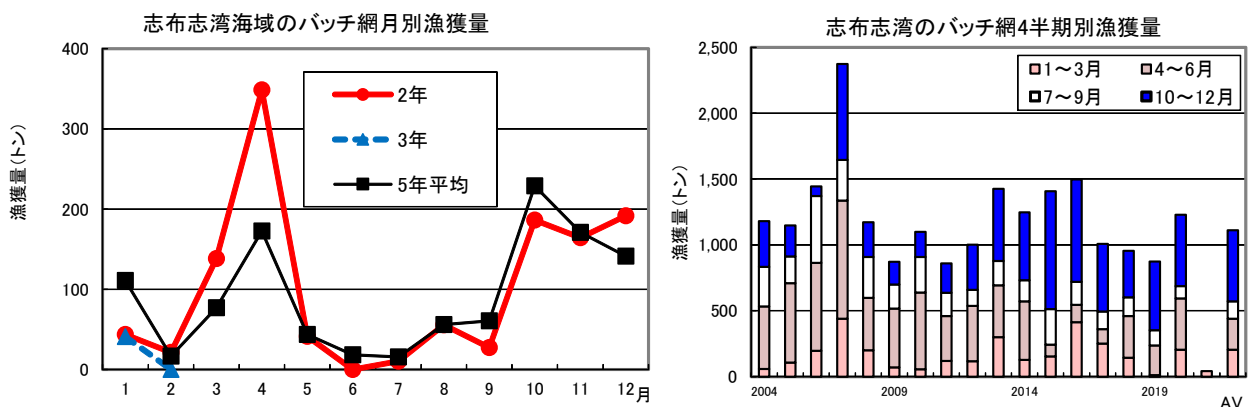


図 志布志湾海域バッチ網漁業の漁獲量変化(2漁協計)

※平年値は過去5年の平均値(AV)、令和3(2021)年2月28日までの水揚げ量を使用